

令和7年度

東祖谷中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基礎・基本の定着と主体的に学習に取り組む生徒の育成
- ②学び合い活動を通して豊かな表現力を身につけた生徒の育成

校長

藤原 隆司

学力向上推進員

古賀 雅治

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○学習に対する態度がとても良く、真面目に取り組むことができる。また、タブレット端末の活用能力が高い。</p> <p>●学力の定着度合いに個人差があり、既習の知識と関連づけた発展的な学習が深まりにくい。</p> <p>●読書量が不足しており、語彙力・読解力が乏しい。</p>	<p>・基礎的・基本的な知識・技能が確実に身につけている。</p> <p>・既習の知識を活用して発展的な学習につなげることができる。</p>	<p>・タブレット端末の個別学習向けのドリル教材を活用して、既習内容の定着を図る。</p> <p>・振り返りシートを活用して授業の振り返りをさせるとともに、生徒自身が成長を実感できる手立てとする。</p> <p>・朝活の時間を活用し、読書に親しむ時間を確保する。</p>	<p>各教科における基礎・基本の習得をより徹底させる。身につけた知識等を確認できるようなミニテストを朝の時間に行う。</p>	<p>・タブレット端末を活用して既習内容の定着を図ることがあまりできなかった。(教科によってはしっかりと活用できていた。)</p> <p>・朝活の時間を活用して、読書の時間を確保することができた。可能であればもう少し、時間を確保する。</p>	<p>・振り返りシート(R80など)を用いて各教科の中で自己評価を行い、生徒の国語力を伸ばしながら、学習の定着度や理解度を確認する。</p> <p>・タブレット端末を活用したドリルを有効活用する。</p> <p>・朝活やその他の時間も活用しながら読書量を増やすようにする。語彙力や読解力の定着を促す。</p>

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○授業中の話し合い活動に、積極的に参加することができる。また、タブレット端末を場面に応じてうまく活用できる。</p> <p>●自分の意見を整理したり、文章にまとめたりして発表することを苦手としている生徒が多い。</p>	<p>・表現活動において意見のまとめ方や聞き方、発表の仕方などの基本的なスキルを習得している。</p> <p>・相手の意見を聞き、目的に応じて、根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えを明確にし、言葉や文章で表現することができる。</p>	<p>・意見を交換し合う場面を授業に多く取り入れ、生徒の表現活動の活性化を図る。</p> <p>・タブレット端末の効果的な活用方法を教員間で共有し、研究と研修を重ねる。</p>	<p>タブレット端末を活用しての表現活動を取り入れてみる。</p> <p>生徒の気づきを全体で共有し、より思考の深まりを促す。</p>	<p>・生徒の意見を広げて表現活動の活性化を図ることができた。</p> <p>・自分の意見を深めるためのツールとして、タブレットを活用して思考を深めることができた。</p>	<p>・自分の意見を整理したり、文章にまとめるような時間をしっかりと確保し、自分の考えをうまく相手に伝える方法を模索する。</p> <p>・タブレット端末が自分の意見を深めるツールとして活用ができることを生徒に伝え、活用できるように指導する。</p>

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○解き方が決まっている課題については、試行錯誤をしながら最後まで粘り強く取り組める。</p> <p>●基礎基本の定着が不十分、もしくは基礎基本の段階から抜け切れない生徒がほとんどである。そのため主体的な学習が満足にできる段階にはないと思われる。</p>	<p>・難しい課題に直面しても諦めずに既習の内容と関連づけて課題解決に向かえる。</p> <p>・仲間と意見を交流させたり協働したりして課題解決をはかることができる。</p> <p>・自身の苦手な分野に気づき、改善するための学習方法を工夫することができる。</p>	<p>・形成的評価や総括的評価を効果的に実施することで、生徒の自己調整学習への意欲を高める。</p> <p>・授業中に問題演習の時間や、タブレット端末を活用した個別学習の時間を設ける。</p>	<p>生徒が自ら学ぶことができる環境の整備。ミライシードなどのタブレット端末の活用。</p>	<p>・ICT(AI)を有効活用することにより、生徒の学習意欲を高めることができた。</p> <p>・基礎基本の学習を丁寧に行うことで、苦手な分野にも粘り強く取り組む生徒が増えてきた。学習方法の工夫については不十分などもあるため改善していく。</p>	<p>・粘り強く取り組む生徒を育てるために自ら学びを深めることができるツールの活用を促す。</p> <p>・各教科において、基礎基本のさらなる定着を図るとともに、生徒の自信につながるような発言・授業づくりを心がける。</p>